

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

動物実験に関する検証結果報告書

（山形大学）

動物実験に関する相互検証プログラム

（国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会）

平成 26 年 3 月

平成 26 年 3 月 25 日

国立大学法人山形大学
学長 結城 章夫 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会
動物実験に関する相互検証プログラム
検証委員会 委員長

対象機関：国立大学法人山形大学
申請年月日：平成 25 年 7 月 25 日
訪問調査年月日：平成 25 年 12 月 9 日
調査員：松田 幸久（秋田大学）
下田 耕治（慶應大学）

検証の総評

山形大学は 6 学部・6 大学院研究科を持つ東北地方有数の総合国立大学であり、その中で地域教育文化学部・理学部（小白川キャンパス）、医学部（飯田キャンパス）、工学部（米沢キャンパス）および農学部（鶴岡キャンパス）の 5 学部において、文部科学省の基本指針に従って適正に動物実験が実施されている。キャンパスは地理的に離れているが、大学全体で一つの動物実験委員会が設置され、事務は小白川キャンパスにある企画部研究支援課が担当している。山形大学では、動物実験を実施している各学部に動物実験委員会の委員でもある動物実験主任者を配置し、各学部長に提出された動物実験計画書に対して動物実験主任者が提出者と連絡を取り調整した後学長へ提出する体制がとられ、円滑な動物実験の審査に努めている。各学部の動物実験主任者は飼養保管施設および実験室の設置申請の際には他学部のもう 1 名の動物実験主任者とともに調査をするなど、適正な動物実験の実施に努めているところは優れた点である。また、教育訓練は学部学生を含むすべての動物実験実施予定者を対象に行われ、動物実験委員会の委員でもある医学部の動物実験主任者が各学部に出向して、日本実験動物学会が推薦する「動物実験の実践倫理」の DVD 等を用い、頻回に実施していることも高く評価できる。

医学部附属動物実験施設では飼育管理の一切を施設職員が行っており、自動給水、

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

自動給餌器を設置するなど省力化も図られ適正な動物の飼育管理が行われている。ただ、医学部附属動物実験施設には竣工後 37 年を経過した建物もあり、その老朽化は激しく、漏水による漏電事故が発生するなどの問題を抱えている。今後とも適正な動物実験を実施するにあたり、老朽化した設備・機器の更新を検討されたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「山形大学動物実験規程」が定められ、その内容は文部科学省基本指針に則したものである。よって、機関内規程について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「山形大学動物実験規程」で文部科学省基本指針に則した動物実験委員会の役割や委員構成などが定められ、9名の委員による動物実験委員会が設置され、動物実験計画書の審査、自己点検・評価や情報公開に関する事項を審議あるいは調査を実施している。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「山形大学動物実験規程」において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続きが規定され、手続きを進めるための各種様式も定められている。よって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 安全管理をする動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え実験については「遺伝子組換え実験安全管理規程」が、研究用微生物については「研究用微生物等安全管理規程」がそれぞれ制定されている。よって、安全管理をする動物実験の実施体制について、「該当する動物実験の実施体制が定められている。」と判断する。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

化学発癌物質・重金属実験に関する実験は現在実施されていないが、今後のため取扱に関する規程等の整備を検討されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設の設置は動物実験委員会の調査および審査を経て、学長により承認される体制をとっている。各飼養保管施設には実験動物管理者が置かれ、各施設に整備された飼養保管マニュアルにより実験動物の飼養保管を行う体制となっている。よって、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見

特になし。

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

複数のキャンパスが離れて存在するため、平成 24 年度の動物実験委員会はテレビ会議による審議が 1 回、学内メールによる計画書の審査が 24 回開催されている。それ以外の活動も滞りなく実施されており、議事録等も適切に保管されていることを確認した。よって、動物実験委員会の実施状況について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成 25 年度には新規、継続、変更をあわせて 158 件の動物実験計画書が審査を受け承認されている。また、動物実験（終了・中止）報告書および動物実験結果報告書は 100% 提出され、動物実験が適正に行われたことを確認している。よって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

3. 安全管理をする動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験施設長が動物実験委員会と遺伝子組換え実験安全委員会の委員を兼務することにより情報の共有が図られている。また、情報の共有事項として、その他にも、動物実験委員会事務と遺伝子組換え実験安全委員会事務を、事務局および各学部の同一の事務担当係が所管し、情報の共有を図っている。さらに、化学発癌・重金属実験に関する取扱規程は未整備ではあるが、それらの実験は実施されていないことから、安全管理をする動物実験の実施状況について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

各学部で飼養保管マニュアルが整備され、11か所ある飼養保管施設はそのマニュアルをもとに飼養保管が実施されている。医学部附属動物実験施設においてはさらに詳細なマニュアルが作成されており、農学部においては主に学生が飼養保管することから学生が理解できる具体的なマニュアルが整備されているが、その中に「緊急時の対応」に関する項目が欠落している。施設ごとに動物使用数も報告され、記録が保存されている。また、医学部附属動物実験施設および遺伝子実験施設においては定期的な微生物モニタリングがなされているが、農学部および工学部において繁殖を行っているマウス、ラットの微生物モニタリングがなされていない。よって、実験動物の飼養保管状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」と判断する。

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

マウス、ラットの繁殖を行っている農学部および工学部においても定期的に微生物モニタリングを実施するよう検討されたい。また、飼養保管マニュアルに緊急時の対応を追加されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

工学部および農学部の施設についてはスライドで説明を受けたが、施設等は適切な維持管理がなされており、また、医学部附属遺伝子実験施設も竣工後 11 年であり施設が適切に維持管理されている。ただ、医学部附属動物実験施設には竣工後 37 年を経過している建物もあり、各箇所に壁面のひび割れ等、破損箇所がみうけられる。また、これまで給排水からの漏水による漏電があつたとのことであり、施設の老朽化が進行している。よって、施設等の維持管理の状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」と判断する。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

破損箇所の補修、老朽化した施設の大規模改修や設備の更新計画を検討されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成 24 年度の教育訓練受講者は 205 名であり、その中には学部学生も含まれる。医学部にお

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

いてはもちろんであるが、農学部および工学部の教職員や学生に対しても、動物実験委員会の委員でもある医学部の動物実験主任者により教育訓練が頻繁に行われている。よって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

各学部において実施した自己点検・評価の結果を集計し、全学の自己点検・評価報告書を作成している。また、情報公開も山形大学動物実験規程はもとより、平成 20 年度から 24 年度までの現況調査表、自己点検・評価報告書、動物実験計画書の審査状況、使用数調、教育訓練受講者数がホームページ上に公開されている。よって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

本検証結果についても、速やかに公開されたい。また、情報公開の内容については、国立大学法人動物実験施設協議会および公私立大学実験動物施設協議会の新たな要請に基づき、さらなる充実を図られたい。

平成 25 年度 検証結果報告書（山形大学）

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

意見

特になし。